

はねっと 3

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します。

こころのふるさとを 忘れない

荒浜打ち上げ花火
実行委員会

すえなが あらた
末永 新さん(26)

「消えてしまったふるさとの賑わいを取り戻したい」と話すのは、仙台市若林区荒浜出身の末永新さんです。東日本大震災で甚大な被害があった荒浜は、災害危険区域に指定され今は人が住むことはできません。2018年、荒浜の夏の風物詩、お盆の夜の灯籠流しが元住民や荒浜に思いを寄せる市民らによって再開。末永さんはその翌年から、灯籠流しの締めくくりとして震災で亡くなった人たちへの鎮魂の花火を打ち上げています。活動には、末永さんの思いに共感する地元の同級生や後輩、花火師をはじめ多くの人たちが協力。震災から10年目の2021年には、荒浜の犠牲者192人と同じ数の花火を上げました。「津波で亡くなった同級生の花火もあります」と、一つひとつの花火に思いを込めます。

震災が起こるまでの15年間で荒浜で過ごしました。「荒浜は自分の一部。一番落ち着く居場所」だと言います。大学進学を機に仙台を離れるも、荒浜や仲間を恋しく思う気持ちと、兼ねてから抱いていた「被災した地元へ貢献したい」という思いが膨らんでいきました。花火を打ち上げることにしたのは、「震災以降、移転で疎遠になった人、様々な葛藤を抱えて荒浜に来られなくなってしまった人も多い。明るい話題で再び足を運ぶきっかけをつくりたい」という思いから。さらに、かつて灯籠流しの終わりに、青年団が打ち上げていた花火を懐かしむ声にも背中を押されました。思い切って実行したその先にあったのは、人が集い灯りに照らされたふるさとの風景、再会を喜ぶ人たち、花火を見上げるたくさんの笑顔でした。

「またこの場所にみんなで立ちたい。遠くに住んでいても関わりたい」。こころのふるさと荒浜に今年もまた多くの人が帰ってきます。



荒浜打ち上げ花火実行委員会

仙台の東部沿岸地域の荒浜は、震災前は、約800世帯が暮らしていました。現在は、荒浜小学校が震災遺構となり、震災を伝え続けています。打ち上げ花火は末永さんが発起人となり、2019年8月から地元の同級生や後輩、灯籠流しを再開させた「荒浜灯籠流し実行委員会」と協力し企画運営しています。

Mail arahama.fireworks@gmail.com



音楽で引き出される「生きる力」

公益財団法人音楽の力による復興センター・東北(以下、復興センター)は、2011年3月26日から、東日本大震災の被災者のもとに音楽を届ける活動を続けています。「復興コンサート」や地域住民と歌う「歌声サロン」などです。復興コンサートで演奏するのは、プロのクラシック演奏家たち。仙台フィルハーモニー管弦楽団員をはじめとする100人以上の有志が、岩手・福島・宮城に出向いてきました。震災から11年、開催したコンサートはまもなく1000回を迎えます。

オーダーメイドの音楽会

復興コンサートの会場は、公共施設の会議室や和室、町内会の集会所など。観客の目の前で、音楽が奏でられます。また、普段は見ることのできない演奏家による曲紹介やトークも魅力の一つ。観客はリズムに合わせて手拍子をしたり、目を閉じて聴き入ったりと思いに過ごします。

コンサートの企画は、地域の自治会や社会福祉協議会などの依頼を受けるところから始まります。一つとして同じものはありません。地域によって違う復興の進み具合や、地域住民の気持ち・温度感、ニーズをくみ取りコンサートを企画するからです。例えば、福島県いわき市のコンサートで選んだ曲は、美空ひばりの『みだれ髪』です。歌詞の一節に地元の名所「塩屋岬」が登場することから、住民に愛されてきました。福島県双葉郡富岡町では、震災前の町をよく知る演奏家をコーディネート。音楽だけでなく、演奏家による懐かしい



▲手拍子をして楽しむ観客

ご当地トークも会場を賑わせました。コーディネーターのひとり千田祥子さんは、「私たちが届けているのは音楽だけじゃないのだと実感させられます」と話します。



▲仙台市内の復興公営住宅にて

音楽で、心緩むひと時を

発災当時、東北の演奏家たちが抱いたのは、「音楽は何の役にも立たないのではないか」という絶望感でした。それでも、演奏家たちは「何かせざるにはられない」と演奏することを選び、試行錯誤を繰り返しながら、被災各地を巡りました。活動を続ける中で届いた声は、「泣いてもいいよと言われた気がした」「震災で亡くなった家族が好きだった曲を思い出した」「安否が分からなかった音楽好きの友人にコンサートで再会できた」など。被災地の人の心をそっとほぐし、人と人をもう一度結びつける音楽に、確かな希望を感じるようになりました。

コーディネーターの伊藤み弥さんは「誰かの人生の節目や、塞いだ気持ち切り替わるようなタイミングに立ち合うこともあります。だから、これからも続けていきたい」と思いを語ります。



▲コーディネーター伊藤み弥さん(左)、千田祥子さん

公益財団法人 音楽の力による復興センター・東北

住所 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-3-9
TEL 022-797-0233
FAX 022-797-1858
Mail on-chika@live.jp

HP ▶



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 3月9日(水)、23日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人 せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2022年3月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

